

# 中村かずおと葉山の未来を考える会

子育て・教育編

ニュース  
No.2

連絡先：〒240-0113葉山町長柄1617-12

TEL/FAX 046-875-6925 E-mail nakazuchan@y2.dion.ne.jp URL <https://www.nakamurakazuo.com/>

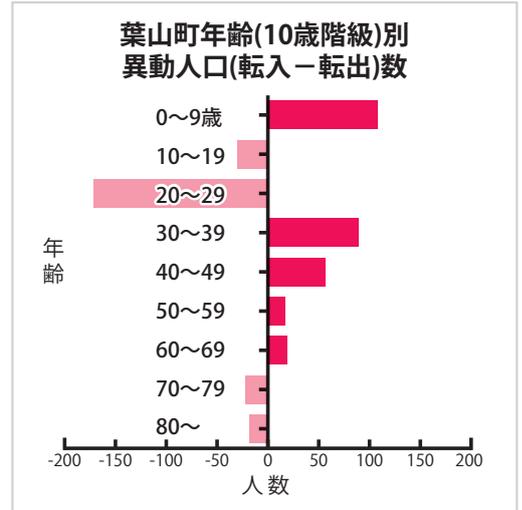


## 葉山を子どもを大事にし子育てしやすい町に!

### 1 子育て世代に人気の葉山！ 多い10歳未満と30～40代の転入

葉山町の平成29年中の年齢別の異動(転入・転出)人口を調べました。総数では、社会増(転入超過)が48人と変動が少ないようですが、年齢別に見ると、右表の通り年代によって驚くほど増減の違いがあります。10歳未満と30～40代の転入が際立っています。人口減少が心配されるなか、葉山の将来に希望を感じさせる数字です。

葉山町がいつまでも活気ある町であり続けるためには、人口の減少をできるだけ抑え、維持することが必要です。そのための戦略として、「子どもを大事にし 子育てしやすい」町づくりは、重点施策として取り組むべき政策と考えます。



### 2 子どもを大事にし子育てしやすい町を目指す理由

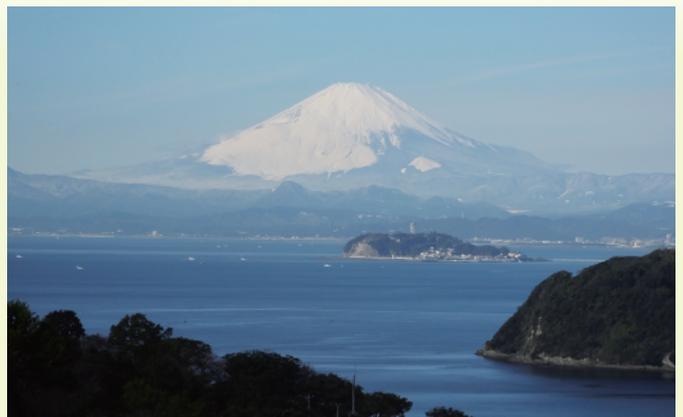
一つは、一人ひとりの子どもたちが本来備えている能力を発揮でき、生き活きと生きられるようにすることが、私たち大人の務めであり、社会の責任だからです。

もう一つは、人口減少社会にあって、葉山町がいつまでも元気な町でいられるためには、若い世代の皆さんが葉山に魅力を感じ、葉山に住んでくれることが必要だからです。恵まれた自然はありますが、これといった産業のない葉山にとって、一定の人口を確保し税収を維持するために若い人に移り住んでもらうことが必要です。

葉山町のキャッチフレーズ“御用邸のまち”“海と山の自然景観に恵まれたまち”に  
“子どもを大事にし子育てしやすいまち”を加えるのです。



葉桜ふるさと祭り



葉桜団地西端から望む富士

### 3 子どもたちの学びの場の環境改善を

子どもが学校でトイレを我慢し帰宅するなりトイレに入る、他市から移り住んで学校のトイレを見て臭気やトイレのドアなど不安になった、といった声を何人かのお母さんから聞きました。町議会の視察でも、緊急の補修が必要な箇所が確認されました。ずいぶん前から、この問題は指摘されていたということです。

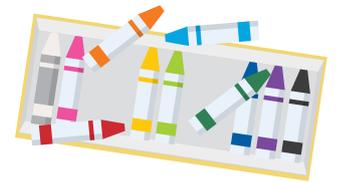


新年度予算で改修を進めることになりましたが、それにしても、これまで放置されてきたのはなぜか？葉山町では、教育はどのように位置づけられているのでしょうか？

財政事情がますます厳しくなることが予測されるなかでも、教育は町を挙げて重点的に取り組むべき課題です。**葉山らしい教育をつくりだすために、行政、教育現場、町民が議論する場が必要です。**

### 4 安心して子育てと働くことができるまちづくり

葉山町には、5か所の保育園(定員294人)と、8か所の学童クラブ(定員約200人)があります。保育園に関しては、入所待機児解消を目指して現在上山口の清寿苑のそばに保育園を整備すべく、県と協議中と聞いており、早期開所が待たれます。

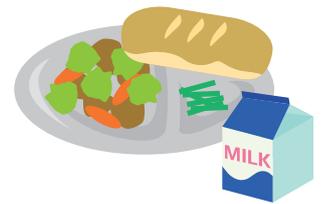


「認定こども園」という、就学前の子どもに教育と保育を一体的に提供し、地域の子育て家庭の支援を行う施設で、幼稚園や保育所などのうち一定の基準を満たす施設を、都道府県知事が認定する制度があります。神奈川県内に140カ所(平成30年4月現在)ありますが、葉山町にはまだありません。幼稚園の協力で整備ができます。

### 5 トコトン議論を！ 給食センター

葉山町では、中学校給食の実現、小学校の給食室の老朽化が問題になっています。

学校給食は子どもたちの心身の健全な発達や、食に関する正しい理解と適切な判断力を養うことを目的に学校給食法に基づいて行われています。自校方式かセンター方式かの議論はありますが、給食は是非ともあって欲しいものです。



問題はお金です。クリーンセンターの再整備や下水道整備は待ったなし。加えて人口増加時代に建設した公共施設がこれから相次いで更新・改修の時期を迎えます。

一般会計100億円ほどの葉山町が、20億円かけて新たな給食施設をつくるには、よほど周到な資金計画と綿密な管理運営策が必要です。学校給食施設は年間の3分の1は使われません。折角の施設設備を効率よく活用する工夫が、これからますます厳しくなる財政事情のもとでは不可欠です。

今、高齢者や子どもたちの食事が大事な課題になっています。近年頻発している災害時の食事への備えも必要です。一般の町民や葉山を訪れた人たちにも開放すれば、もっと利用される施設になります。立地選定と機能の多様化を軸に、町民あげて知恵を出し合い、効率的で財政負担の少ない、これからの少子高齢化時代に対応した画期的な施設を目指してトコトン議論しましょう。